



高輪だより

令和3年度 2月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

季節の変わり目に思うこと

園長 柿沼 敦子

1月のある日、園庭の池に氷が張りました。子どもたちは池に張った氷を素手で持ち上げながら「見て、こんなに大きい!」「つめた〜い!」などと、思ったことを口にしながら、歓声をあげていました。氷を手にとってのはみたものの、その冷たさは、限界を超え、手から落ちて砕けました。その小さな手は真っ赤にかじかみ、氷の冷たさを物語っていました。ある子は、「昨日、寒かったでしょ、だからこんなに氷ができてきているんだよ」と言うので、担任が「明日もできるかな」と返すと、「夜が寒かったらできるって!池のところに扇風機を付けておけばいいよ」と幼児らしい言葉が返ってきました。寒さが厳しいと水が氷ること、薄く張った氷は容易く割れること、氷は冷たいこと、実際の体験から、自然の不思議さや厳しさを学び、科学的な思考が芽生えました。一緒に歓声を上げ共感できる仲間のいるうれしさと、子どもたちのためにお湯を用意してくれた先生の優しさを、バケツの中で友達と一緒に手を温めながら感じたことでしょう。短いこのドラマの中にいくつもの育ちの要素がありました。

2月と言えば、節分、豆まきの歌♪鬼はそと、福はうち、ぱらっ、ぱらっ、ぱらっ、ぱらっ、豆の音、鬼はこっそり逃げてゆく♪が、聞こえます。節分の豆まきは、季節の変わり目に生まれると信じられた邪気(鬼)を負い払うための儀式でした。魔(鬼)を滅する「魔滅(マメ)」である豆を鬼にぶつけ邪気を払い無病息災を願うとされています。今年こそ世の中に長い間潜伏している姿の見えない鬼を、「魔滅(マメ)」で追い出しましょう。はやく、こっそり逃げて行ってほしいものです。

まだまだ寒さが厳しい日が続いていますが、小鳥たちは春めいてきた日差しを感じているようです。朝早い園庭に小鳥たちの囀りがよく聞かれるようになってきました。春は確実に近づいて来ています。豆まきの歌の2番は♪はやく おはいいり 福の神♪福の神は、安心できる世の中です。たとえ、鬼がこっそり逃げ出せず、「with鬼(コロナ)」となったとしても、対策を講じながら、安心して生活できる世の中になるよう一人ひとりの努力を積み重ねて参りましょう。改めまして姿の見えない鬼と日々対峙してくださっている医療機関をはじめとする関係諸機関の多くの方々に心深く感謝申し上げます。

わくわく ばかばか
みんなえがおの
たかなわようちえん

幼稚園の池に氷が張りました。



幼稚園のニューフェイス

「ふわら」です。ふわふわの「ふ」、わたあめの「わ」、ラビットの「ら」から付けた名前です。



今月の指導のねらい

<3歳児>

- 気の合う友達や同じ場にいる友達に、自分の思いを自分なりの言葉や動きで表しながら遊ぶ。
- 学級の友達とみんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じる。(運動遊び、簡単なゲームなど)
- 身の回りのことを自分でしようとしていたり、できたうれしさを感じたりして自信をもつ。

<4歳児>

- 学級の友達に親しみをもち、友達とのつながりを感じながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 友達とルールを共有して遊ぶ中で、遊びの面白さや、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。(様々な鬼遊び、転がしドッジボール、室内でのゲーム遊び等)
- 当番活動や誕生会の係活動など、年長児のしていることに興味をもち、教えてもらおうとしたり一緒にやってみようとする。

<5歳児>

- 子ども会をやり遂げたことで自信をもち、友達と共に過ごす喜びを味わいながら、自分たちで遊びや生活を進めていく充実感を味わう。
- 就学への期待を高めながら、「あいさつをする」「きまりを守る」「考えて行動する」「最後まで丁寧に取り組む」「人の話を聞き、自分の思いを言葉で伝える」を意識して取り組めるようにする。
- 年長児として取り組んできた活動や遊びを年中児に伝える中で、相手への思いやりの気持ちをもったり、自分たちの成長を感じたりする。